

『沖縄芸術の科学』第34号別刷

金武町屋嘉の芸能衣装の再現制作から 考察する古紅型技法

渡名喜はるみ

名護朝和

前田直美

宇良京子

宮城愛美

泉佳那

2022年3月

金武町屋嘉の芸能衣装の再現制作から考察する古紅型技法

渡名喜はるみ 名護朝和

前田直美 宇良京子

宮城愛美 泉佳那

Examining Ancient Bingata Techniques from the Process of Reproducing Performing Arts Costumes in Yaka, Kin

Harumi TONAKI, Tomokazu NAGO

Naomi MAEDA, Kyoko URA

Aimi MIYAGI, Kana IZUMI

はじめに

工芸専修染研究室は「琉球王国文化遺産集積・再興事業」(沖縄県立博物館主催)に於いて沖芸チームとして委嘱を受け、紅型袷衣装「花色地枝垂桜に垣根薔薇模様衣裳」(ベルリン民族学博物館所蔵)の再現制作に臨んだ。その際、非破壊科学分析・マイクロスコープ撮影のデータ資料を基にディスカッションを重ね、原資料の色材に迫る方法を学んだ。この経験を生かし、独自で古紅型の再現制作プログラムを計画した。原資料としたのは、金武町屋嘉区に伝わる芸能衣装のうち紅型衣装2点で、金武町有形文化財指定のNo.4、No.5を制作した。両衣装ともに基本の彩色材料は県内、県外に見る古紅型衣装の名品と共通するが、柄構成・金箔加飾・作業工程などに特異な点が多い。再現制作を行う事で各工程を追体験し、これまで紅型衣装制作において伝承されて来なかった技法を確定し、科学分析による色材選定をまとめた。御冠船踊と称される舞台の衣装論証や、琉球王国時代の紅型衣装制作の多様な技法の再現制作

のための活用資料としたい。

金武町有形文化財指定 No. 5 の報告を、下記の手順で行う。

1. 熟覧調査報告
2. 再現制作のためのトレースと型彫
3. 糊置き構成
4. 金箔の加飾について
5. 制作後の柄構成について考察
6. まとめと今後の課題

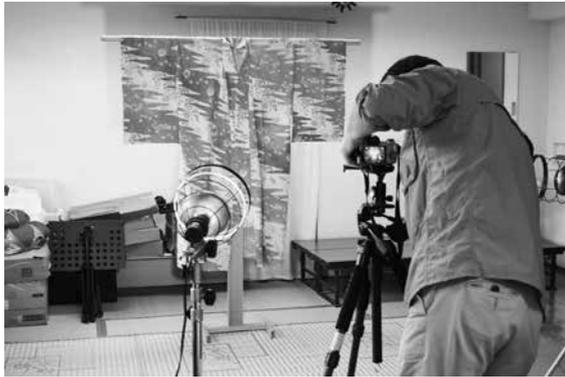
1. 熟覧調査報告

1-1(1)調査の方法

2017年から2021年の間、7回の資料調査を実施した。外部協力者として沓名貴彦氏の協力を得て、今回は以下3種の科学分析調査を行った。

・赤外線カメラによる染料・顔料類の使用状態調査

赤外線は、可視光線より長い波長の光である。顔料や、染料によってその光に対する吸収に差が生じる。天然染料である藍にはその吸収はみられないが、墨や鉄系は赤外線吸収がみられる。その使用状況確認のため赤外線を用いて撮影を行う。



[図 1] 赤外線カメラによる調査の様子（2018 年）

・可視 - 近赤外分光分析 (VIS-NIR) による色材のスペクトル調査
可視 - 近赤外分光分析は、各波長における反射・吸収の状況を分光器によって検出し波長スペクトルと呼ばれる光の分布状態を表示する。一定の光を用いて色材の色を分布状態で表すため、より細かくその差をみる事が可能となる。



[図 2] 可視 - 近赤外分光分析による調査の様子(2021 年)

・蛍光エックス線分析 (XRF) による色材の元素分析

色材は液体状態の染料と固体である顔料とに区別され、材質として有機物と無機物とに区別される。銅鉍物由来の無機顔料には緑青や群青、ヒ素鉍物由来の石黄、水銀鉍石由来の辰砂などが知られ、また人工的にも水銀顔料の朱や鉄系顔料のベンガラ等が作られている。X線を用いて元素固有の蛍光エックス線を発生させ、非破壊分析を行う。



[図 3] 蛍光エックス線分析による調査の様子 (2021 年)

1 - (2) 資料の状態

- ・ 基布は綿平織を使用。広幅布 (機械織) を琉球衣装用に裁断使用。
- ・ 左衽の下部分の端が四角く切り取られており、墨をこぼした跡が付いている。左後身頃に墨をこぼした跡。この墨は制作後に付着したものと推察。
- ・ 破損箇所にも別布 (本体より時代が下る染色布・科学染料) での補修が数カ所あり。
- ・ 桜の葉や、花の中央に墨書き (キガチ) が見られ、墨の入った模様箔を施した形跡がある。右前身頃の肩山近くにある薄黄色の桜だけに、花全体に墨書きされており、右衽の藍色地の部分には墨書き跡に金箔を施した形跡がある。金箔は衣装全体に施した痕跡があり特に後身頃はその密度が高く痕跡が認められた。

- ・片面染の仕上げ。当初から金箔加飾衣装として制作故かと推察。
- ・右後身頃の裾部分に、微かに立ち波の模様が現れており、色差した模様が褪色したのか、糊置きしたが色差せずに糊やけの色が残っているのかは不明である。
- ・衿は棒衿仕立て。袖は振袖。両袖ともに袖の内側に布が折り返している。3cm 折り返した布に更に裾部分の模様の入った生地 (7・8cm) が縫い足され、合計 11.5cm 折り込まれている。動いた際に両面染のような効果を狙ったのであろうか。

1-(3)色材調査について

全体的に鉛元素 (Pb) が検出するため地入れに鉛白を塗布した可能性が高い。全体に白色顔料を塗布する傾向は、女子美術大学美術館に所蔵されている「染分地松鶴梅菊模様衣裳」、「緋色地波頭桜樹模様衣裳」でも類似資料が挙げられる。その効果は不明であるが、上級紅型衣装制作の興隆期には基本の技法であったように窺える。

地入れの手順として、豆汁と鉛白を混ぜたのか、豆汁を塗って後に鉛白を塗ったのかは不明であるが、資料の黒色変化は鉛の経年変化によるものと思われる。

2. 再現制作のためのトレースと型彫

柄の基本情報として、霞や稲妻にもみえる洲浜模様が肩から斜めに流れ、地色を交互に朱色と藍色に染め分けている。朱色地には桜、竹垣に葉と花、蔓の紋様が2種類、藍色地には朱色地と同型の桜、笹丸紋、朝顔丸紋とその周りに小梅を散らしている。肩から裾に向けて枝垂桜が洲浜模様の背景に見え、裾から肩に向けては菖蒲と鳥が飛び交っているのが見える。

型紙製作では2017年10月から継続的に行なっている現地調査を踏まえ、型紙の構成について考察したが解決には至らなかった。洲浜模様

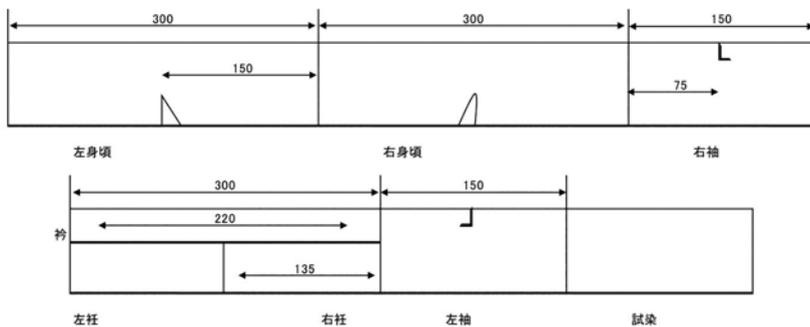
と枝垂れ桜、菖蒲と鳥、朱色と藍色地に置かれている桜や丸紋などはそれぞれ別型であろうと推測し、洲浜模様に至っては型と筒を併用した痕跡があるが、同じ模様の配置が随所に窺え、連続した縁型ではないかと思える。今回の復元制作では、現時点で解明できない型紙の構成を明らかにするために、左右の袖と身頃模様を全て図案に起こし型紙を制作した。衿、衿については右身頃の型紙を使用している。

原資料の写しは、細心の注意を払いながら資料の上にアクリル板を置き、更にその上に薄紙を載せ大まかなサイズや模様の位置などを書き写した。最終的には撮影した写真を実寸大に拡大し、細かな模様の確認を行い、型紙図案を完成させた。朱色、藍色の洲浜模様にある図案については、繰り返して使用したことが窺えるため、洲浜模様の中に彫り込まず、朱色、藍色ごとに分けて図案を作製した。その他、先に彫った型紙をステンシルで型紙に写し、枝垂れ桜の蕊や花芯と葉、菖蒲の蕊や外花被、鳥の目、洲浜模様の笹丸紋と朝顔丸紋の背景なども摺箔の型紙として作製した。

今回の型紙製作では渋紙は使用せず、ST 洋型紙（厚さ 12 番）を使用した。型彫は古典技法と同じく、シーグ（小刀）とルクジュ（下敷き）を使用し、突き彫りした。紗張りについては現代仕様のテトロン紗を使用。洲浜模様の中にある型紙については両面を使用しており、摺箔でも使用することから紗張りは行っていない。

3. 糊置き構成

現代の紅型衣装の糊置の配置と大きな違いはない。古紅型衣装の鎖型の柄つけによく見られる肩山からつけ下げて置き、着用時の柄方向を整える。衿、衿の境界は作らずに、仕立ての段階で考慮している。



[図 4] 墨打ち図

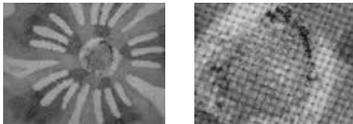
表1 色材表

原資料	科学調査	再現制作	色名	調合色	使用場所
	石黄（ヒ素） As の検出		キイロ キイログマ	代用石黄 騰脂顔料	桜花、桜花芯、葉、 白地花の中心 洲浜丸紋の朝顔、 菖蒲のつぼみ、蕊
	接着剤か不明	再現制作では 金箔を貼り付 けたため画像 なし		福木	桜花、桜の葉 朱色洲浜：朝顔、桜花の花芯 藍色洲浜：丸紋、桜花の花芯、 菖蒲の花弁、菖蒲の蕊
	騰脂染料		ブキ アカグマ	チタン胡粉+騰脂 顔料 騰脂顔料	桜花、蕾、 菖蒲の花、蕾
	銀朱（黄口） Hg の検出		朱①	銀朱+バインダー	桜の白地花外側、蕾、 菖蒲の蕾、 洲浜の丸紋の朝顔
	銀朱（黄口） +騰脂染料 Hg の検出		朱②	銀朱+騰脂染料	朱色洲浜
	藍顔料+鉛白+ 騰脂染料 Pb の検出		フジ フジグマ	騰脂顔料+本藍+ チタン胡粉 騰脂顔料+本藍 +チタン胡粉	桜花
	藍+鉛白 Pb の検出		水色 エーグマ	チタン胡粉+本藍 本藍	桜花、葉、枝 鳥、菖蒲の花、葉、 洲浜丸紋、生垣紋
	藍		青 エーグマ	本藍+ベロ藍 本藍	桜の葉、枝、 鳥、菖蒲の葉、 洲浜丸紋、生垣紋
	藍		藍	本藍+ベロ藍	藍色洲浜
	墨 赤外線より	再現制作では 金箔を貼り付 けたため画像 なし	墨	墨	桜花（2箇所のみ使用） 桜の葉、花芯
	金箔 Ag の検出 接着剤は不明		金箔	金箔 接着剤：箔下糊	桜の花、桜の葉 朱色洲浜：朝顔、桜花の花芯 藍色洲浜：丸紋、桜花の花芯、 菖蒲の花弁、菖蒲の蕊、鳥の眼

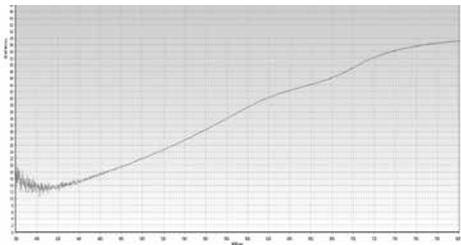
4. 金箔の加飾について

原資料は、全ての染色工程が終わった後、金箔で加飾が施されていることが、顕微鏡による調査と沓名貴彦氏による科学分析にて判明した。[図5]

金箔の接着剤は未だ確定できないが、金箔で加飾された場所には黄色味のある色素が残っており、型紙を使って摺り込んだ痕跡もあることから、糊状のものを接着剤として使用したと思われる。印金などの接着剤として古来より使われてきたものに膠、漆、糊があり、そのいずれかではないかと推測される。膠は顔料の接着剤として絵画などで使われており、動物の軟骨質などから作られる。漆は樹液を精製したもので、塗料や接着剤として日本でも古くから用いられている。糊は小麦粉、糯米粉、粳米粉などの各種澱粉から作られている。先にも述べたが、原資料で使用された接着剤は糊状のものとする。そのため、液状で使用する膠を単独で使うことは難しい。漆は接着力が強く耐水性であるが、固まりやすく型紙を繰り返し使う事は不可能である。表具用の接着剤として生麩糊があり、型染めなど防染糊の材料として糯米粉も使われていることから、何らかの澱粉糊を接着剤として使用したのではないかと推測する。



[図5] 金箔の花芯と拡大部分



グラフ(可視-赤外線分光折による金のスペクトル)[図5]からAu(金)の特徴的な曲線が見られた

紅型と琉球漆芸は材料や道具、装飾性においても類似することが多い。漆に米粉や小麦粉を混ぜて糊漆や麦漆を作り、螺鈿や金箔、乾漆などの接着剤としても使われている。紅型衣装の接着剤として使われた可能性も無くはないが、耐水性の漆より水溶性の膠のほうが扱いやすい。膠を澱粉糊に混ぜて接着力を強くした可能性も否定できない。何れにせよ、糊状にした接着剤で箔押しした可能性が高いと思われる。

マイクロスコープによる調査で、金箔を施したと思われる枝垂れ桜の葉や花芯などに墨書きした跡が確認できる。いつの時点で墨書きしたのか、その理由も不明である。金箔の上に墨書きした可能性については、金箔に墨書きするには、箔を押しした上に礬水液を何度か重ねなければ墨は着色しなかった。また、マイクロスコープの画像でも、墨書きした上に箔を押ししているように見えことから、金箔の上に墨書きした可能性は低く、箔押しの日印として墨書きを施したのではないかと結論に至ったが、今回の工程で墨書き(キガチ)は行っていない。

今回の再現制作では、地張された糊板に染め上がった生地を張り、型紙を用いて金箔の加飾を行なった。接着剤は市販の箔下糊を使用している。箔下糊はエマルジョン樹脂で、粘度を下げる場合は水で薄める。仕上りの風合いと乾燥を調整するため、澱粉糊に混ぜて使用することもあるが、今回はそのまま使用した。作業工程は、金箔で加飾する柄の上に型紙を置き、その上から駒ペラで接着剤を置く。型紙をはがし、水に浸ける。エマルジョンタイプの接着剤は乾くと不溶性になるため、すぐに水洗いする必要がある。次に、接着剤の上から箔を貼る。接着剤の上に箔をそっと置き、上から綿で軽く押さえて接着させる。接着剤が完全に乾燥してから、余分な箔を取り除き完成となる[図6][図7]。金箔はすべて型紙を用いて接着したが、朱色地にある朝顔の葉は筆で塗布した可能性もあり、接着剤の材料を含めて調査研究の余地がある。



[図 6] 金箔の加飾作業



[図 7] 再現制作 葉と花芯の金箔加飾部分

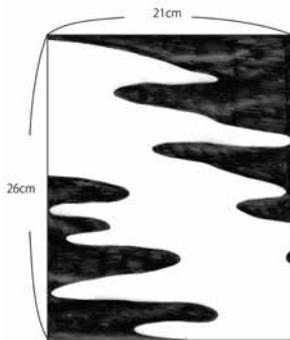
5. 制作後の柄構成について考察

原資料は、古紅型に類型を見ない構成である。同じ形のモチーフを繰り返し登場させてリズムを生む反復模様 of 要素を持ちながら、柄のリピート点を捉えられない、広がりをもった衣装デザインに仕上がっている。経年変化がひどく、トレースによる型紙再現が困難であったため、再現制作は、絵羽模様として衣装全体の柄を彫りこんだ制作方法をとった。再現制作後の熟覧と、資料の分析を重ね、当時の地型紙のサイズの条件を考慮していく事で、意匠設計の状況が見えてきた。

5 - (1)

上部の枝垂れ桜と洲浜 (朱色と藍色の染地部分) の柄について。

一見枝垂れ桜と洲浜の組み合わせとして完成した柄に見えるが、抜粋した洲浜 [図 8] と、[図 9] を洲浜の流れに合わせて組み合わせ構成している。桜と洲浜の部分に手書き (筒がき) で糊の境界線を書き加え、工夫しているのがわかる [図 10]。



〔図8〕 抜粋した洲浜



〔図9〕 参照例



〔図10〕 洲浜と桜模様

5 - (2)

下部の菖蒲と洲浜の柄について。

上部の柄の組み合わせと同様の手法で、〔図8〕と〔図11〕をその都度組みわけている。菖蒲と洲浜の部分に手書き(筒がき)で糊の境界線を書き加えているのがわかる。〔図12〕



〔図11〕『流水蛇籠に菖蒲葵模様白地型紙』
(鎌倉芳太郎資料集第一巻紅型型紙)



〔図12〕 洲浜と菖蒲

資料の状態の項目でも触れたように、〔図11〕の真ん中の立ち波の消し忘れらしきものが確認された。

5 - (3)

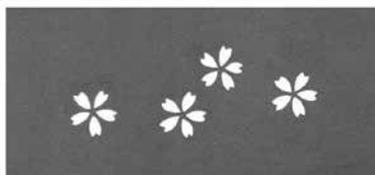
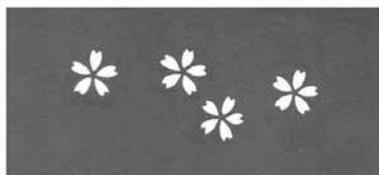
洲浜の中の細かな柄は別彫りで、糊置きの際に入れ込んでいる。



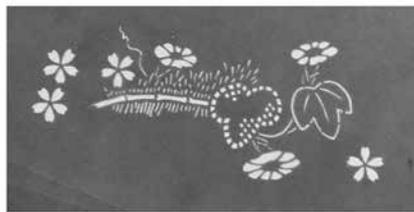
[図 13]
朱色洲浜



[図 14]
藍色洲浜



[図 15] 洲浜の中の小桜紋様 (朱色、藍色洲浜共通。裏表使用。)



[図 16] 朱色洲浜に入れ込まれた柄



[図 17] 藍色洲浜に入れ込まれた柄

6. まとめと今後の課題

金武町屋嘉の伝承衣装の特異性について熟覧調査、色材の科学分析、柄構成の考察と述べてきた。当初、沖縄県内に現存する唯一の金箔紅型衣装であることから工芸専修染研究室の共同研究テーマとして取り掛かった。テルモ株式会社の助成金を得て科学調査や、同時代制作の可能性のある類似資料として女子美術大学美術館所蔵の琉球古紅型衣装の調査を行う事ができた。

ひと口に制作年数19世紀頃と表記される古紅型衣装であるが、クライアントである琉球王国を取り巻く情勢は時代とともに変化し、冊封使を迎える歓待の宴の有り様も変化したであろう。屋嘉の古衣装は屋嘉区史(戦前編)に明治12年頃、首里御殿で御冠船の踊り衣装の払い下げがあり、競売で落札入手とある。かつて首里王府が中国使者の歓待の宴席で着用した衣装を、村あしび(村芝居)で着る事が許される時代になって、村全体の宝として保存されてきた。廃藩置県からそれほど遠くない時代の記録と、入手先が明白な現存衣装である。調査を経て、材料となる細番手の上質な綿の広幅機械織地(貴重な輸入品であった)に贅沢に使用された金箔や本朱が手元にあった状況と判断できる。しかし、大胆な柄構成をするのに、既存の柄で再構成に時間をかけて構築し糊置のリスクの高い方法を採用している。糸目友禅であれば、江戸時代中期以降は市中でもよく目にする構成であるが、型染めでは洪紙のサイズから、かなりの地型紙を要する。地型紙の入手に困窮していたのであろうか。又は、小袖雛型に見る全体的構図の絵羽柄を表現するのに、常日頃の手技を積み重ね、構築しただけなのだろうか。自己の作品で表現する実制作者でもある私たちは、いろいろな状況を考える。調査し、解析の段階で実制作者の立場に引き寄せ過ぎると、判断力が鈍る危険性も承知しているが、再現制作に関して、技法の解明は、追体験していくという実制作者の感覚で迫る事が必須である。

今回再現制作することで、当時の絵師と呼ばれるプロデューサー的な立場の者の表現者たる意志の持ちよう、それに呼応する当時のくんや(紅型製作所)の創意工夫を肌で感じる事ができた。この再現制作を通して多面的に古紅型を検証する上で、屋嘉の芸能衣装は大変貴重な資料であると再認識した。作業上煩雑であったろうと推測する柄構成の解明は最終段階にまできていると思う。今後はこの分析を踏まえて、再構築の型紙での制作を予定している。

次回調査資料報告をする予定の、金武町有形文化財指定資料NO.4「花色地震枝垂れ桜短冊蛇籠蒲公英水仙蝶模様衣装」も含め、屋嘉区の人々が地域の豊年祭に数多くの立派な衣装を揃えられた喜びを明治以来、住民が共有してきたことに頭が下がる思いである。また、その伝承衣装を、現代での祭りで実際着用の衣装として、芸大の染研究室チームに共同制作の機会を与えていただいたことに感謝し、口伝では伝えられて来なかった技法と、紅型衣装精華の時代の工夫を伝承していく資料としたい。

《付記》

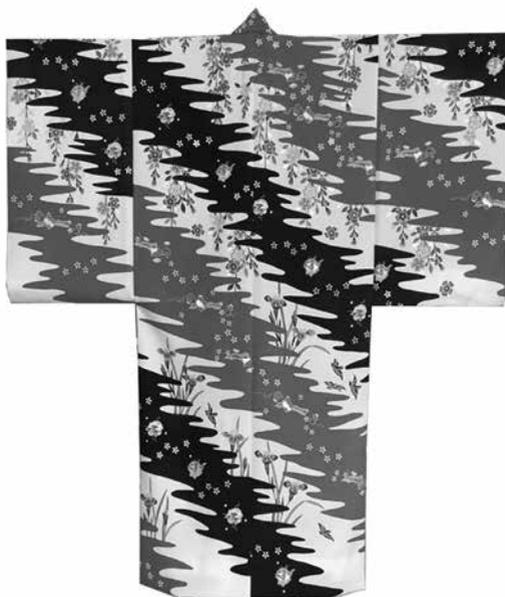
本稿は、2017年度テルモ株式会社から芸術文化活動の助成を得て実施した一部です。科学分析調査では、国立科学博物館の沓名貴彦先生にご協力を頂きました。ここに改めて感謝の意を表したいと思います。

参考文献

- 『沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵 鎌倉芳太郎資料集 第一巻 紅型型紙(一)』沖縄県立芸術大学附属研究所 2002年
『屋嘉区誌(戦前編)』屋嘉区誌編纂委員会 2005年



[図 18] 原資料 金武町有形文化財指定衣装 NO.5



[図 19] 芸大チーム再現制作衣装

沖縄県立芸術大学芸術文化研究所彙報

I 研究業務状況

(1) 2部門以上共通

1. 移動大学 in 伊平屋島 [担当: 芸術文化学部門、伝統工芸部門、伝統芸能部門]

「沖縄県立芸術大学移動大学 in 伊平屋島」

2021年12月19日(日)

会場: 伊平屋村産業連携拠点センター

紅型教室 講師: 宇良京子 泉佳那

写真教室 講師: 仲本賢 大城愛香

陶芸教室 講師: 金城宙矛

琉球芸能教室 講師: 比嘉いずみ 玉城理恵

空手教室 講師: 盧姜威

運営担当教員: 久万田晋 鈴木耕太 新田摂子

事務スタッフ: 平田利恵子

延べ参加人数: 12名

2. 沖縄県立芸術大学芸術文化研究所文化講座・沖縄学 [担当: 芸術文化学部門、
伝統工芸部門、伝統芸能部門]

講座テーマ「沖縄芸能のダイナミズム」(総合教育科目「沖縄学」としても開講)

※オンデマンド(YouTube)で開催

期間: 2021年4月14日～2021年7月28日(毎週水曜日)

第1回 4月14日 鈴木 耕太(芸術文化研究所准教授)

「近世琉球における組踊」

第2回 4月21日 鈴木 耕太(芸術文化研究所准教授)

「近現代の組踊」

第3回 4月28日 呉屋 淳子(沖縄県立芸術大学音楽学部准教授)

「伝統芸能の担い手をめぐって」

- 第4回 5月12日 呉屋 淳子（沖縄県立芸術大学音楽学部准教授）
「沖縄の地域と伝統芸能」
- 第5回 5月19日 三島 わかな（沖縄県立芸術大学非常勤講師）
「沖縄イメージって、どのように創られたの？」
- 第6回 5月26日 大嶺 可代（芸術文化研究所共同研究員）
「沖縄における劇場・映画館の変遷」
- 第7回 6月2日 久万田 晋（芸術文化研究所教授）
「近現代エイサーの伝播状況」
- 第8回 6月9日 久万田 晋（芸術文化研究所教授）
「現代沖縄の創作エイサー」
- 第9回 6月16日 遠藤 美奈（沖縄県立芸術大学音楽学部准教授）
「沖縄系移民と民俗芸能」
- 第10回 6月30日 遠藤 美奈（沖縄県立芸術大学音楽学部准教授）
「沖縄系移民と琉球古典音楽」
- 第11回 7月7日 飯田 泰彦（竹富町教育委員会）
「八重山における祭りと饗宴」
- 第12回 7月14日 三島 わかな（沖縄県立芸術大学非常勤講師）
「読む文学から、聴く文学へ」
- 第13回 7月21日 小西 潤子（沖縄県立芸術大学音楽学部教授）
「沖縄の南洋踊りの系譜」
- 第14回 7月28日 久万田 晋（芸術文化研究所教授）
鈴木 耕太（芸術文化研究所准教授）
三島 わかな（沖縄県立芸術大学非常勤講師）
「座談会：全体のまとめ」

視聴回数合計：延べ3740回（2021年9月3日時点）

3. 令和3年度沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業 [担当:鈴木耕太（代表）・麻生伸一・比嘉いずみ / 専任・兼任教員以外のメンバー:波照間永吉・高良則子・仲嶺伸吾・高嶺久枝・阿嘉修・新垣俊道・西岡敏・仲原穰]

- A しまくとぅばを用いた琉球芸能実践授業（琉球芸能専攻にて実施。）
- B しまくとぅば講演会「誇らしゃ しまくとぅば」（2021年12月。オンデマンド配信）
- C 琉球芸能におけるしまくとぅば副教材の開発（2021年6月～）
- D 首里系組踊勉強会開催（2021年4月～）・首里系組踊勉強会成果発表会（2021年3月。オンデマンド配信）
- E 令和3年度しまくとぅば実践教育プログラム開発事業事業報告会（2022年2月。オンデマンド開催）
- F 『琉球芸能用語事典（仮）』の編集

（2）芸術文化学部門

- 1. 地域文化の調査研究
 - a 組踊を中心とした琉球文学の研究 [担当：鈴木耕太准教授]
 - b 沖縄各地の伝統文化の調査研究 [担当：鈴木耕太准教授]
- 2. 沖縄文化の比較文化論的研究 [担当：波平八郎教授]
- 3. 沖縄文化の歴史学的研究 [担当：麻生伸一准教授]

（3）伝統工芸部門

- 1. 沖縄染織品の調査 [担当：新田摂子]
 - a 沖縄県立博物館所蔵 俵屋コレクションの調査、2021年1月
 - b 沖縄県立博物館所蔵 「琉球古紅型」の調査、2021年11月～12月
- 2. 沖縄伝統染織技法の研究 [担当：新田摂子]
 - a 復元された腰機による製織技法の研究
「腰機入門」沖縄県県立芸術大学芸術文化研究所文化講座、2021年11月17日、24日
- 3. 沖縄染織研究会運営 [担当：新田摂子]

（4）伝統芸能部門

- 1. 沖縄・奄美の民俗音楽の調査研究 [担当：久万田晋教授]
 - a 奄美大島・喜界島の芸能採譜資料の作成 [7～12月]

- b 沖縄本島エイサーの芸能関連資料の作成 [8月～10月]
- 2. 日本本土の音楽芸能文化の調査研究 [担当：久万田晋教授]
 - a 四国の民俗芸能に関する調査資料分析 [11月]
 - b 京都府の民俗芸能に関する調査資料分析 [12月]

Ⅱ 主要研究業績

- 1) 研究所員主要研究業績 (2020年1月～12月)
 - 1. 著者・編書 2. 論文 3. 作品発表・公演 4. 研究発表
 - 5. 解説等 6. 講演・放送 7. その他
- 2) 助成研究
 - 1. 平成30年度において研究代表者、研究分担者となっている科学研究費研究
 - a 研究代業者となっているもの b 研究分担者となっているもの
 - 2. 沖縄県立芸術大学関連助成券研究
 - 3. その他

(1) 研究所所長

久万田 晋 (教授、専任教員)

- 1)
 - 4. 研究発表「近現代沖縄におけるエイサーの展開」第20回コミュニティ政策学会沖縄大会シンポジウム<芸能とコミュニティ>にパネリストとして発表、2021年10月16日、沖縄市ミュージックタウン3F音市場ホール。
 - 4. 第20回コミュニティ政策学会沖縄大会シンポジウム<芸能とコミュニティ>分科会「各地エイサーを支えるコミュニティ」においてコーディネーター(司会進行)を務める。2021年10月17日、沖縄市ミュージックタウン3F音市場ホール。
 - 4. 研究発表「現地調査録音テープの公開方法－沖縄民謡データベースから」(金城厚と共同発表)日本民俗音楽学会第34回大会、2021年12月5日、

京都市：同志社大学今出川校地。

6. 基調講演「沖縄・奄美の民謡・歌謡・民俗芸能を俯瞰する」奄美沖縄民間文芸学会オンライン大会シンポジウム〈奄美沖縄の芸能と伝承〉(Zoom)、2021年9月11日。
6. 講義「近現代エイサーの分布状況」令和3年度沖縄県立芸術大学芸術文化研究所文化講座〈沖縄芸能のダイナミズム〉、2021年6月2日、オンデマンド配信 (YouTube)。
6. 講義「現代沖縄のエイサー」令和3年度沖縄県立芸術大学芸術文化研究所文化講座〈沖縄芸能のダイナミズム〉、2021年6月9日、オンデマンド配信 (YouTube)。
6. 講義(鈴木耕太・三島わかなの鼎談)「座談会：全体のまとめ」令和3年度沖縄県立芸術大学芸術文化研究所文化講座〈沖縄芸能のダイナミズム〉、2021年7月28日、オンデマンド配信 (YouTube)。
6. 講義「エイサーの起源と歴史 近代以前」がらまん文化講座、2021年8月、オンデマンド配信 (YouTube)。
6. 講義「エイサーの展開Ⅰ 明治～昭和前期」がらまん文化講座、2021年8月、オンデマンド配信 (YouTube)。
6. 講義「エイサーの展開Ⅱ 戦後のエイサー・コンクール」がらまん文化講座、2021年9月、オンデマンド配信 (YouTube)。
6. 講義「音楽から見るウスデーク・エイサー」沖縄県しまくとぅば普及センター〈しまくとぅば講師養成講座〉、2021年10月2日、名護市：沖縄北部雇用能力開発総合センター。
6. 講義「エイサーの展開Ⅲ 創作エイサー・県外のエイサー・観光とエイサーについて」がらまん文化講座、2021年10月、オンデマンド配信 (YouTube)。
7. 「連載 沖縄・奄美の島々を彩る歌と踊り⑥ 宮古のクイチャー－伝統と創造の拮抗－」『e-magazine LATINA』(ウェブ雑誌) 2021年1月。
7. 「連載 沖縄・奄美の島々を彩る歌と踊り⑦ 奄美大島の八月踊り－男女の歌掛けと太鼓の響き－」『e-magazine LATINA』(ウェブ雑誌) 2021年2月。

7. 「連載 沖縄・奄美の島々を彩る歌と踊り⑧ 沖縄の浜下り行事－祓い清めと女の遊び－」『e-magazine LATINA』（ウェブ雑誌）2021年3月。
7. 「＜特選沖縄の伝統芸能＞と地域の芸能について」『地域の伝統文化 継承の現状と課題 令和二年度 地域の文化継承・発信支援事業』沖縄県・沖縄県文化協会、2021年3月、pp.4-5。
7. 「今を生きるウチナーのうた」『ミュージックスタディ 沖縄県資料2・3下』（沖縄県中学校音楽教育研究会編）学宝社、2021年4月、pp.4-5。
7. 「連載 沖縄・奄美の島々を彩る歌と踊り⑨ 歌がつかなく奄美と八重山－騒ぎ歌《六調》の系譜－」『e-magazine LATINA』（ウェブ雑誌）2021年4月。
7. 「連載 沖縄・奄美の島々を彩る歌と踊り⑩ 沖縄のハーリー行事－爬虫船競漕と龍蛇神への願い－」『e-magazine LATINA』（ウェブ雑誌）2021年5月。
7. 「連載 沖縄・奄美の島々を彩る歌と踊り⑪ 沖縄の創作エイサー－伝統性と現代性の競合－」『e-magazine LATINA』（ウェブ雑誌）2021年6月。
7. 「連載 沖縄・奄美の島々を彩る歌と踊り⑫ 沖縄の木遣り歌＜国頭サバクイ＞」『e-magazine LATINA』（ウェブ雑誌）2021年7月。
7. 「傍聴記」（持田明美氏発表「これは組踊か？ 上平川字の大蛇踊り」）に対して『東洋音楽学会沖縄支部通信 No.44』（東洋音楽学会 HP 公開）2021年8月3日、pp.3-4。
7. 「連載 沖縄・奄美の島々を彩る歌と踊り⑬ 八重山のアンガマー帰還する祖先神との交流－」『e-magazine LATINA』（ウェブ雑誌）2021年8月。
7. 「連載 沖縄・奄美の島々を彩る歌と踊り⑭ 奄美大島のショチョガマ・平瀬マンカイ－夏の節目における稲霊の招来－」『e-magazine LATINA』（ウェブ雑誌）2021年9月。
7. 「連載 沖縄・奄美の島々を彩る歌と踊り⑮ 沖縄の豊年祭－夏の節目を祝う祭り－」『e-magazine LATINA』（ウェブ雑誌）2021年10月。
7. 「連載 沖縄・奄美の島々を彩る歌と踊り⑯ 沖縄・奄美における悲劇の女性伝説と歌」『e-magazine LATINA』（ウェブ雑誌）2021年11月。
7. 「連載 沖縄・奄美の島々を彩る歌と踊り⑰ 近代沖縄 芸能を地域に

伝えた人物－玉城金三の活躍－』『e-magazine LATINA』（ウェブ雑誌）
2021年12月。

2)

1. b 基盤研究 (C) 「奄美における文化の伝承・創生のメディア的展開とアイデンティティ形成に関する研究」(2019年度～2021年度) 研究代表者:
加藤晴明 (中京大学教授)

(2) 芸術文化学部門

鈴木 耕太 (准教授・専任教員)

1)

2. 「真喜志康忠と組踊ー沖縄芝居役者が重要無形文化財『組踊』保持者になった理由ー」『沖縄映画研究会3周年記念誌ー女優・真喜志きさ子ー』
沖縄映画研究会 2021年3月
2. 「近代沖縄組踊関連年表〈抄〉」『沖縄芸術の科学』第33号 2021年3月31日
3. 新作組踊「首里の路次楽」(脚本・演出) アイム・ユニバースてだこホール(小ホール)(上演日:2021年2月27日)
3. 組踊「フチュルイチムシ」ー歌う動物たちー 第17回おきなわ文学賞
しまくとぅば戯曲部門 佳作 2021年12月1日
4. 「『組踊誕生』試論」第100回沖縄文化協会公開研究発表会 アイム・ユニバースてだこホール市民交流室 2021年11月20日
4. 「沖永良部島における組踊の伝承」2021年奄美沖縄民間文芸学会(オンライン開催) 2021年9月11日
5. 「地域で伝承される組踊ー現状と希望ー」『地域の伝統文化 継承の現状と課題』沖縄県文化協会 2021年3月
5. 「すごいぞ組踊」『みんなの文化財図鑑』沖縄県教育委員会 2021年3月
5. 概要執筆「重要無形文化財(琉球古典音楽:照喜名朝一、中村一雄・組踊音楽歌三線:城間徳太郎、西江喜春・組踊音楽太鼓:比嘉聰)」『那覇市の文化財 令和2年度』那覇市文化財課 2021年3月
6. 「近世琉球における組踊」沖縄県立芸術大学芸術文化学研究所文化講座「沖

縄芸能のダイナミズム」第1回 2021年4月14日

6. 「近現代の組踊」沖縄県立芸術大学芸術文化学研究所文化講座「沖縄芸能のダイナミズム」第2回 2021年4月21日
6. 「組踊の『ジャンル』について考える」令和3年度組踊保存会第4回伝承者養成研修講座 伝統組踊保存会 2021年9月15日
6. 「首里城と芸能」第1回甦る首里城を守る会文化講座 甦る首里城を守る会 2021年12月25日
7. 「沖縄タイムス『ワラビー』琉球芸能紹介」『沖縄タイムス』2021年1月～12月（毎月第2日曜掲載）
7. 「琉球新報『聴事を求めて』」『琉球新報』2021年1月～12月（毎月第1・第2水曜日曜掲載）
7. 「ていーち Teach！しまくとぅばの魅力」『琉球新報りゅうPON』2021年10月17日
7. 取材記事「組踊の立方は24人の園児たち 創作「首里の路次楽」を公演」琉球新報 2021年4月1日

2)

1. 令和3年度において研究代表者、研究分担者となっている科学研究費研究
 - a 研究代表者となっているもの
基盤研究(C)「組踊台本の基礎的研究」[課題番号：21K00308]
 - b 研究分担者となっているもの
課題研究(C)「琉球王国の儀礼芸能の再現に関する芸能史的研究」
研究代表者：金城厚

波平 八郎（教授、兼任教員）

1)

7. 「能楽論と沖縄の伝統芸能」（沖縄県立芸術大学紀要第29号、2021年3月）

麻生 伸一（准教授・兼任教員）

1)

1. 著書・編著

(共著) 高良倉吉監修、島村幸一編『首里城を解く—文化財継承のための礎を築く』勉誠社、(分担執筆)「近世琉球期の首里城」

2. 論文

3. 作品発表・公演

4. 研究発表

「真栄平房昭『琉球海域史論』(上・下) 合評会—琉球史の視点から—」
琉球沖縄歴史学会 2021 年 8 月例会

5. 解説等

6. 講演・放送

「近世琉球の職人と王府」おきげい教養講座、2021 年 1 月 15 日 (オンライン)

「古文書からみる近世琉球」博物館文化講座 (沖縄県立博物館・美術館)、
2021 年 9 月 23 日 (オンライン)

「古文書の読み方 1」おきなわ県民カレッジ第 7 回美ら島沖縄学講座、2021
年 10 月 6 日、沖縄県南部合同庁舎

「古文書の読み方 2」おきなわ県民カレッジ第 9 回美ら島沖縄学講座、2021
年 11 月 10 日、沖縄県南部合同庁舎

7. その他

2)

1. a 基盤研究 (C) 21K00837 首里・首里城の儀礼に関する基礎的研究 (2021
年度 - 2026 年度) 研究代表者: 麻生伸一 (沖縄県立芸術大学)

1. b 基盤研究 (B) 19H01299 海域アジアにおける港市および港市国家の基
礎的研究: 広域的・多角的な視座から (2019 年度 - 2023 年度) 研究
代表者: 黒嶋敏 (東京大学)

1. b 基盤研究 (B) 18H00698 南西諸島における海上交通の復元的研究—「帆
船の時代」の「歴史航海図」— (2018 年度 - 2022 年度) 研究代表者:
四日市康博 (立教大学)

1. b 基盤研究 (B) 21H00589 奄美群島の墓葬制に関する考古学的研究 (2021
年 - 2026 年度) 研究代表者: 関根達人 (弘前大学)

1. b 基盤研究 (C) 21K00853 分散した琉球古文書の統合と活用に関する研究
(2021 年度 - 2025 年度) 研究代表者: 豊見山和行 (琉球大学)

(3) 伝統工芸部門

新田 摂子（講師、専任教員）

1)

2. 「日本本土で開かれた沖縄染織品の展覧会について」『沖縄芸術の科学』第33号、沖縄県立芸術大学附属研究所、2021年3月、pp.85-107
6. 「首里城と染織文化」首里城と琉球・沖縄文化、令和2年度沖縄県立芸術大学附属研究所文化講座第14回、2021.1.27（オンデマンド配信）
6. 「腰機入門」沖縄県立芸術大学芸術文化研究所文化講座、2021.11.17、2021.11.24
7. 沖縄県立博物館での俵屋コレクションの調査、2021年1月
7. 沖縄県立博物館での「琉球古紅型」の調査、2021年11月～12月

2)

1. b 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）19KK0005
「在欧沖縄染織品の調査とそのコレクションの成立に関する研究」、2019年～2023年、研究分担者、研究代表者：柳悦州（沖縄県立芸術大学名誉教授）

名護 朝和（教授、兼任教員）

1)

3. 型染額装「Pool」《線の誘惑 型染》
染、清流館（京都） 2021年2月26日～3月21日
3. 型染掛軸作品「月夜の花」《JTC テキスタイルの未来形 in 宝塚 2021》
宝塚市立文化芸術センター（兵庫） 2021年3月6日～3月28日
3. 型染パネル作品「花風」《新匠工芸会展》
東京都美術館 2021年10月8日～14日 京都市美術館別館 10月20日～24日
7. 展評「田島征彦 型染と絵本原画展」沖縄タイムス 2021年1月6日

山田 聡（教授、兼任教員）

1)

3. 作品発表・公演

《面取網代文三彩抱瓶》琉球王国文化遺産集積・再興事業 複製制作品
2021年度巡回展 九州国立博物館、東京国立博物館他

6. 講演・放送

特記なし

7. その他

五芸祭 特別企画 作品講評会 講評担当 (2021年9月) リモート
美術系大学陶磁器分野交流企画(全3回) 内1回ファシリテーター(2021年10～11月) リモート

(4) 伝統芸能部門

高瀬 澄子 (教授、兼任教員)

1)

4. 「彦根城博物館所蔵「律呂図板」の構造と理論」 中日音楽比較研究及び
團伊玖磨先生音楽創作研究国際学術シンポジウム 福建師範大学 2021
年5月18日 (録画開催)

2)

1. a 基盤研究(C) 課題番号18K00135 「『歌道要法』の研究」 研究代
表者:高瀬澄子 2021年度:0円(直接経費)
1. b 基盤研究(C) 課題番号20K00132 「琉球王国の儀礼芸能の再現に
関する芸能史的研究」 研究代表者:金城厚 2021年度:120万円(直
接経費)

比嘉 いずみ (准教授、兼任教員)

1)

3. NHK「にっぽんの芸能」放映(収録:国立劇場おきなわ 大劇場)「本貫花」
インタビュー 2021年2月19日
3. 国立劇場おきなわ主催 琉球舞踊鑑賞会(国立劇場おきなわ:大劇場)「作
田」2021年7月24日
3. 那覇市テンプス館主催 木曜芸能 百花繚乱(那覇市テンプス館ホール)「諸

屯」2021年11月11日

6. 国立劇場おきなわステージガイド 2021年11月号 「思い出名舞台7」
インタビュー掲載
6. 沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業 オンデマ
ンド教材収録「舞踊基礎③」解説担当 (沖縄県立芸術大学:奏楽堂ホー
ル) 2021年12月21日
7. 琉球新報社主催第55回琉球古典芸能コンクール(優秀部門審査委員)
2021年8月28日～9月3日
7. 琉球新報小中学生新聞りゅうPOM「ていーち Teach !! しまくとぅば3」
掲載「琉球舞踊にまつわる言葉」 2021年12月19日